

# 碧水園能

## 喜多流公演

能山姥 やまんなば

佐々木多門

狂言

清 しみず 水石田幸雄

令和6年2月10日(土) 開演午後1時30分

(開場午後0時30分)

自石市古典芸能伝承の館 碧水園能楽堂

主催 碧水園能に親しむ会実行委員会

後援 自石市、自石市教育委員会

(協) 自石市文化体育振興財団

自石商工会議所、自石市文化協会

お問い合わせ先 電話〇二二四―二五―七九四九

住所宮城県白石市南町丁目二番二二号

入場料.....

正面補助席/脇正面指定席 6,000円

脇正面補助席 5,500円

自由席 5,000円

(当日午前10時30分〜整理券を配布)

学生席 3,500円

(中学生以下無料、先着10名)

チケット取扱所.....

碧水園、中央公民館、白石喜多会会員

※令和5年12月3日(日) 午前9時発売開始

電話受付 午前10時開始

〔(写真) 佐々木宗生 所演〕

# 碧水園能 喜多流公演 番組

お話し 佐藤 寛泰

開演 一・三〇

狂言 清水

太郎冠者 石田 幸雄

主人 中村 修一

後見 破石 晋照

休憩十分

シテツレ・遊女 塩津 圭介

後シテ・山姥 前シテ・里女

佐々木 多門

能 山姥

ワキ・遊女従者 舘田 善博

ワキツレ・従者 則久 英志

間狂言・境川の里人 内藤 連

後見 塩津 哲生  
栗谷 浩之

地謡  
谷友矩 大島 輝久  
佐藤 寛泰 金子 敬一郎  
友枝 真也 狩野 了一  
佐藤 陽 内田 成信

附祝言

終演予定 四・〇〇頃

狂言 清水 (しみず)

主人に命じられたものの水汲に行きたくない太郎冠者は、清水に鬼が出たので手桶を投げて逃げ帰ったと嘘をつく。すると主人が、手桶を取り返しに清水に行くと言い出し、太郎冠者は……

能 山姥 (やまんば)

山を廻る山姥のありさまを舞にした「山姥の曲舞」で都の人々の評判をとり、百万山姥と呼ばれている遊女が、善光寺詣を思い立って祈りの旅に出ました。

旅の一行が、越後の境川から険しい難路の上路越を進むと、にわかあたりが真っ暗となり困惑してしまいます。するとどこから現れたのか、女が「宿を貸しましょう」と声をかけてきたので、一行は安堵して、女の家へ案内されて入ります。

すると女人は「宿をお貸しした訳は、じつは自分は山姥なのだ」と正体をあかし、「山姥の曲舞」を我に聞かせよ、と所望します。日が暮れて月が出たならば、真の姿をあらわしてみせようといいい、かき消えてしまいます。

やってきた里人に山姥の出生の物語りを聞いて、一行が月の出を待っていると、物凄く深谷の中から姿容ろしい山姥が出現します。百万山姥は恐怖の心をおさえて曲舞を謡うと、山姥は六道輪廻を象徴した山廻りの舞を舞います。山人の荷運びに力を貸したり、機織りの手助けなどをし、それと気付かれぬようにしながらも人間との交わりを持つ山姥の存在。人間の障限のない苦しみの業や、仏の教えの摂理を説きながら、永遠に山から山へと山廻りを続ける靈力を示して、やがていつの間にか消え去ってしまうのです。

石田幸雄 (和泉流狂言方)

一九四九年生。野村万作に師事。万作一門の重鎮として活躍し、二〇〇六年芸術祭大賞受賞。二〇一一年観世寿夫記念法政大賞受賞を受賞。日本能楽会会員 (重要無形文化財総合指定)

佐々木多門

一九七二年生。喜多流職分。佐々木宗生職分の長男。塩津哲生職分に師事。喜多流の伝統が続く白石の地。平成八年より碧水園の公演を勤めている。日本能楽会会員 (重要無形文化財総合指定)

**会場のご案内**

白石駅 白石城 第二小学校 白石中学校 碧水園 GS 至福島 至仙台

国道113号 旧国道4号線 国道4号線

白石市古典芸能伝承の館 碧水園  
〒989-0248 宮城県白石市南町2丁目1番13号  
電話・FAX/0224-25-7949